

自己評価報告書(最終報告)

コース等名

特別支援教育専攻

記載責任者

八幡 ゆかり

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成の質保証

大学の機能別分化・機能強化が求められる中、本学は教員養成入学として高度専門職業人としての教員を養成することを目標としている。教員養成の質保証のため、専攻・コースではどのような取り組みを行うか、具体的な方策を示してほしい。

1. 目標・計画

目標: 高度専門職業人として、特別支援教育における実践課題を解決できる教育実践力を養成する。

具体的方策

- 1) 教育・医学・心理学分野における専門的な力量を養成するために、授業の工夫や論文指導を行い、教員間で意見交換を行う。
- 2) 特別支援教育コーディネーター分野における特別支援教育コーディネーターとしての力量形成に向けて実践的授業を行う。
- 3) 卒論発表会や修士論文発表会の充実を図る。
- 4) 実習業務を担うセンターと連携して、特別支援教育実習の充実を図り、理論と実践との一体化を目指す。

2. 点検・評価

目標: 高度専門職業人として、特別支援教育における実践課題を解決できる教育実践力を養成する。

具体的方策

- 1) 教育・医学・心理学分野における授業の工夫についてはFD関連での意見交換、論文指導については定期的に開催する論文発表会においてお互いの指導学生について指導・助言を行った。
- 2) 特別支援教育コーディネーター分野では障がい児を対象にした「わくわく教室」の実践的授業や、各教員が特別支援教育士の資格取得可能な授業シラバスを作成して取り組んだ。
- 3) 卒論発表会や修士論文発表会の充実のために当該学年だけでなく全学年(院では長期履修学生1年を含む)に周知して早い時期から論文への関心を高めるようにした。
- 4) センター所属兼務の教員を窓口にして、主に小学校や特別支援教育実習を中心に事前・事後指導を円滑に進められるように連携を密に行った。
- 5) 長期履修学生の専門性向上を図り、院1年の段階からゼミ見学や修士論文発表会への参加を促すと共に、学部授業において実践力を身につけられるように授業の工夫を行った。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

目標: 学生の教育・学生生活上の相談に対して、専攻教員全員で対応できる支援体制を敷く。

具体的方策

- 1) カリキュラムについて入念な指導を行うと共に、教員全体で協力して履修上のアドバイスや進路指導を随時行う。また、専攻会議で常に学生についての情報を交換し、教員全員が情報を共有できるように努める。
- 2) 学生・院生に対する教育面・研究面での支援の充実のために、教材・教具・研究用機器・機材の貸与等、きめ細かいサービスを提供できるように、教育研究補助のための便宜を図る。
- 3) 学部生と院生が合同で歓迎会を行う等、学生相互間、及び教員－学生相互間の親睦を深めることに努める。

2. 点検・評価

目標: 学生の教育・学生生活上の相談に対して、専攻教員全員で対応できる支援体制を敷く。

具体的方策

- 1) 学部学生並びに大学院生(特に長期履修学生)に入学段階のオリエンテーションで履修上のアドバイスを行ったり、卒論や修論の指導教員による進路指導、気になる学生について専攻会議で話し合う等、適宜行った。
- 2) 学生や院生の教育的支援として専攻の予算を使って、院生室の環境整備(ブラインド設置など)、パソコンや専門書の購入、検査機材の貸与など、定期的に学生の要望を聞いて、便宜を図った。
- 3) 学部生と院生が新入生歓迎会を合同で行ったり、卒論や修論のゼミ内でお互いの親睦を図ることができるよう、教員が仲立ちを務めた。
- 4) 学部生と院生が共用する場所について齟齬が生じた時など、お互いの連絡を密にするように指導を行うなど、常に学生の状況を把握するように努めた。
- 5) 学部学生や院生の学生生活の把握に努め、時には学生代表をとおして注意喚起を行うなど、教員を目指す学生のマナー向上に努めた。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

目標:専攻教員全員の研究活動の活性化を図り、高度な専門性の維持・向上を図る。

具体的方策

- 1) 卒業論文や修士論文のテーマを教員が協力して指導し、学会や雑誌に共同で研究発表できるようにする。
- 2) 地域と連携しながら、関係機関と特別支援教育に関する研究を行う。
- 3) 県内の特別支援教育の要として、公開講座等を通じて広範な研究・実践活動を展開する。

2. 点検・評価

目標:専攻教員全員の研究活動の活性化を図り、高度な専門性の維持・向上を図る。

具体的方策

- 1) 修士論文テーマについて協力指導し、全国学会誌に研究発表、地方学会誌雑誌に論文投稿した。
- 2) 徳島赤十字ひのみね総合療育センターと肢体不自由児に関して共同研究した。
- 3) 公開講座を開催して、発達障害に関する講演と教育相談を実施して地域の教員や保育士、保護者のニーズに応じた支援を展開した。
- 4) 徳島県と共催にて、発達障害シンポジウム2012を実施し、地域保健、幼児保育、教育の立場から発達障害に関する就学前の現状と課題について情報交換を行った。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

目標:委員として各種委員会や会議において職務を遂行するとともに、免許状更新講習等を通じて大学運営に寄与する。

具体的方策

- 1) 特別支援教育専攻の代表として、主要な委員会(院教務、学部教務、院入試、学部入試、就職)のすべてに専攻の教員が出席し、審議に参画する。
- 2) 基礎・臨床系教育部に所属する教員として各種委員会(新、専門部会、ワーキングなど)に出席し、積極的に会の運営に携わる。
- 3) 教員免許状更新講習の必修領域や選択領域に参画し、講習内容の充実と、対教師支援の充実に努める。

2. 点検・評価

目標:委員として各種委員会や会議において職務を遂行するとともに、免許状更新講習等を通じて大学運営に寄与する。

具体的方策

- 1) 特別支援教育専攻の代表として、主要な委員会(院教務、学部教務、院入試、学部入試、就職)のすべてに専攻の教員が出席し、審議に参画した。
- 2) 基礎・臨床系教育部に所属する教員として各種委員会(新、専門部会、ワーキングなど)に出席し、積極的に会の運営に携わった。
- 3) 教員免許状更新講習の必修領域や選択領域に参画し、講習内容の充実と、対教師支援の充実に努めた。
- 4) 大学のプロジェクトの委員や学長指名の委員として大学の運営に携わった。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

附属学校との連携

目標: 附属特別支援学校との教育・研究面での連携を強化させる。

具体的方策

- 1) 附属特別支援学校の研究テーマについて, 専攻教員が関わり, 協働研究を推進する。
- 2) 教育実習などの附属特別支援学校の教育について, 専攻教員全員で関わり, 教育を推進する。

社会との連携

目標: 公立の諸学校や保健・福祉・医療機関との連携を拡充し, 社会貢献する機会を増やす。

具体的方策

- 1) 公開講座・教育支援アドバイザー等の活動を通じて, 障害についての啓発を図るとともに, 特別な支援が必要な子どもについて助言を行う。
- 2) 徳島県の障害福祉や教育に関する研修会の講師招聘に応じて, 県下の特別支援教育の推進に寄与する。

2. 点検・評価

附属学校との連携

目標: 附属特別支援学校との教育・研究面での連携を強化させる。

具体的方策

- 1) 附属特別支援学校の研究テーマについて, 専攻教員が関わり, 協働研究を推進した。
- 2) 教育実習などの附属特別支援学校の教育について, 専攻教員全員で関わり, 教育を推進した。
- 3) 附属特別支援学校の教育プロジェクトに参画した。
- 4) 附属特別支援学校の教員との共同で教育実習に関する研究を行い, 「日本教育大学協会研究年報(日本教育大学協会)」に採択された。

社会との連携

目標: 公立の諸学校や保健・福祉・医療機関との連携を拡充し, 社会貢献する機会を増やす。

具体的方策

- 1) 公開講座・教育支援アドバイザー等の活動を通じて, 障害についての啓発を図るとともに, 特別な支援が必要な子どもについて助言を行った。
- 2) 徳島県の障害福祉や教育に関する研修会の講師招聘に応じて, 県下の特別支援教育の推進に寄与した。
- 3) 徳島県, 県医師会と連携し, 発達障害従事者研修会を実施し, 発達障害に係る医療関係者, 教育関係者, 福祉関係者等への情報提供, 研修の機会を設けた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

発達障害のある児童生徒への実践力を高めるために, 学部学生及び長期履修学生を対象にした「発達障害教育論」の開講を先導し, 平成25年度から開講するために尽力した。